

平成20（2008）年度

事業報告書

（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）

学校法人 筑紫女学園

目 次

I. 法人の概要

1. 目 的	-----	1
2. 建学の精神	-----	1
3. 設置する学校・学部・学科等	-----	2
4. 学生・生徒・園児数	-----	3
5. 卒業者数	-----	3
6. 役員・評議員の概要	-----	4
7. 教職員の概要	-----	5

II. 事業の概要

1. 法人本部	-----	6
2. 大学・短期大学部	-----	6
3. 中学・高等学校	-----	8
4. 短期大学部附属幼稚園	-----	9

III. 財務の概要

1. 資金収支計算書(5ヶ年比較)	-----	11
2. 消費収支計算書(5ヶ年比較)	-----	12
3. 貸借対照表(5ヶ年比較)	-----	13
4. 財務分析	-----	14

I. 法人の概要

1. 目的

本学園は、教育基本法及び学校教育法に従い、仏教特に浄土真宗の精神に基づく教育を施して、淑良なる女子を育成することを目的としています。

2. 建学の精神

本学園は、仏教とくに浄土真宗の教えを建学の精神として設立された学園です。校訓はその精神を三項目にまとめて表したものです。

<校訓>

自律（自己への目覚め）

自律とは、自分の人生を自らが生きるということです。それは、本当の自分を照らし出す光となるものに出会い、それによって自分を深く見つめるところから始まります。こうして自分自身を見つめるとき、私たちはこれまでの自己中心的なありかたの過ちに気づかされ、“さまざまな恵みによって生かされている”という自覚にたどりつきます。この自覚を基礎として、自ら考え、自ら判断し、自ら行動していくことが、自律ということなのです。

和平（他者への目覚め）

和平とは、自分のまわりにある他のすべての存在を認め、互いに尊重しあう中に生まれるおだやかな世界です。自らを律するとき、私たちは一人ひとりが、かけがえのない自己を生きている身であることに気づくでしょう。もしも自己中心的な価値観にとらわれて他者を軽んじたり、あるいはそれぞれの尊さを無視して自分と同じになることを強要すれば、対立と争いを引き起こすだけで、ほんとうのおだやかな世界は決して生まれてこないでしょう。

感恩（生命への目覚め）

感恩とは、自分を支えている大いなる恵みを知ることです。自律というありかたによって自分自身の内側に目を向けるとき、私たちの生命は、無限の生命のつながりの中に縁あって恵まれ、はぐくまれてきたものであることに気づくでしょう。同時にそのつながりの中で、恵まれた生命を生かす必要があるということも、うなずけるでしょう。

こうして、自分を支えている、はかり知れないはたらきに感謝の念を抱き、その恩に報いたいと願いながら生きることが大切なのです。

3. 設置する学校・学部・学科等

平成20年5月1日現在

学校	学部等	学科等	開設年月	所属長
筑紫女学園大学大学院	人間科学 研究科	人間科学専攻	平成19年4月	学長 小山 一行
筑紫女学園大学	文学部	日本語・日本文学科	昭和63年4月	学長 小山 一行
		英語学科	昭和63年4月	
		英語 ^{NAE} 学科	平成17年4月	
		アジア文化学科	平成11年4月	
		人間福祉学科	平成11年4月	
		発達臨床心理学科	平成14年4月	
筑紫女学園大学短期大学部	—	現代教養学科	平成17年4月	学長 小山 一行
		幼児教育科	昭和44年4月	
筑紫女学園高等学校※1	—	普通科	昭和23年4月	校長 松崎 秀典
筑紫女学園中学校 ※1	—	—	昭和22年4月	校長 松崎 秀典
筑紫女学園大学短期大学部 附属幼稚園	—	—	昭和47年4月	園長 笠 唯信

※1……前身：筑紫高等女学校（明治40年開校）

4. 学生・生徒・園児数

平成20年5月1日現在

(単位：人)

学校	学部等	学科等	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
大学院	人間科学研究科	人間科学専攻	10	8	20	30
大 学	文学部	日本語・日本文学科	100	152	400	535
		英語学科	100	129	400	483
		英語メディア学科	100	97	400	407
		アジア文化学科	80	56	340	293
		人間福祉学科	120	75	500	443
		発達臨床心理学科	100	144	420	517
		合 計	600	653	2,460	2,678
短期大学部	—	現代教養学科	120	122	240	257
		幼児教育科	100	126	200	231
		合 計	220	248	440	488
高等学校	—	普通科	550	626	1,650	1,822
中学校	—	—	250	230	750	743
短期大学部 附属幼稚園	—	3歳児	80	77	260	254
		4歳児	※1 10	20		
		5歳児	—	1		
合 計			1,720	1,857	5,520	6,015

※1 … 4歳児及び5歳児の各収容定員は、共に90名

5. 卒業者数

平成21年3月31日現在

(単位：人)

学 校	平成20年度卒業者数	累計
大学院	12	12
大 学	698	6,769
短期大学部	232	28,023
高等学校	528	32,775
(旧制)女学校	—	5,891
中学校	248	12,782
短期大学部附属幼稚園	86	3,382
合 計	1,804	89,634

6. 役員・評議員の概要

平成20年5月1日現在

役員・評議員	理事（理事長を含む）	監事	評議員
定数	14人以上16人以内	2名	36人以上43人以内

(1) 役員状況 理事（現員 14人：常勤5名、非常勤9名）

監事（現員 2人：非常勤2名）

理事	笠 信 暁	理事	占 部 美 子
理事	小 山 一 行	理事	長 尾 亜 夫
理事	松 崎 秀 典	理事	立 花 民 雄
理事	鉄 川 洋	理事	井 上 雄 介
理事	水 月 哲 人	理事	高 原 信 一
理事	傍 示 裕 昭	理事	中 川 正 法
理事	七 里 信 路	理事	加 留 部 久 美 子

監事	冬 至 克 也	監事	春 山 九 州 男
----	---------	----	-----------

(2) 評議員状況 評議員（現員 37人：常勤18人、非常勤19人）

評議員	小 野 望	評議員	久 光 洋 子	評議員	石 丸 徹
評議員	中 川 正 法	評議員	加 留 部 久 美 子	評議員	荒 木 靖 邦
評議員	一ノ瀬 元史	評議員	熊 谷 敏 子	評議員	笠 信 暁
評議員	笠 唯 信	評議員	伊 佐 元 子	評議員	小 山 一 行
評議員	金 子 修 三	評議員	後 藤 安 代	評議員	松 崎 秀 典
評議員	海 野 法 寿	評議員	原 田 泰 信	評議員	鉄 川 洋
評議員	永 安 道 一	評議員	杣 山 眞 乗	評議員	水 月 哲 人
評議員	藺 牟 田 修	評議員	橘 英 哲	評議員	傍 示 裕 昭
評議員	川 邊 武 芳	評議員	遠 藤 玄 之	評議員	七 里 信 路
評議員	西 村 陽 子	評議員	高 田 智 映	評議員	長 尾 亜 夫
評議員	末 次 基 洋	評議員	高 原 信 一	評議員	占 部 美 子
評議員	梶 木 正 益	評議員	立 花 民 雄		
評議員	菅 原 盛 之	評議員	井 上 雄 介		

7. 教職員の概要

平成20年5月1日現在

(1) 教育職員数

(単位：人)

所 属	専任教員	特任教員	常勤講師	特任教諭	非常勤講師	合 計
大 学 (大学院を含む)	68	3	-	-	179	250
短期大学部	18	0	-	-	101	119
高等学校	72	-	9	5	26	112
中学校	30	-	2	2	5	39
短期大学部附属幼稚園	9	-	4	0	9	22
合 計	197	3	15	7	320	542

(2) 事務職員数 (技能職・労務職を含む)

(単位：人)

所 属	専任職員	特任職員	嘱託職員	非常勤職員	合 計
大 学 (大学院を含む)	42	2	3	49	96
短期大学部	8	0	0	14	22
高等学校	13	0	3	1	17
中学校	5	0	0	1	6
短期大学部附属幼稚園	0	0	0	1	1
法人本部	17	4	2	0	23
合 計	85	6	8	66	165

II. 事業の概要

1. 法人本部

- (1) 学園創立 100 周年記念事業の一環として、記念誌『筑紫女学園百年史』の編纂作業を行っており、平成 21 年 7 月の発刊を予定している。
- (2) 学園の発展に資する新たな取り組みに関する調査の一環として、経理及び人事労務分野を中心とする制度及び事務系システムの再構築に着手した。

2. 大学・短期大学部

(1) 教育

[教育改編]

- 大学・短期大学部に関してカリキュラム改正作業を実施し、平成 21 年 4 月から 1 年次入学生に適用する。
- 発達臨床心理学科に高校公民の教職課程と特別支援教諭免許取得課程を新規に導入、アジア文化学科に高校公民の教職課程を追加導入する申請を実施し、平成 20 年 12 月に認可を受け、平成 21 年 4 月から 1 年次入学生に適用する。
- 平成 21 年度の実施に向けて客員教授制度を制定した。

[教育改革の実施]

- 平成 19 年度に制定した教育理念・目標に基づく改革・改善を推進し、平成 20 年 8 月に第 1 回報告会を実施した。
- 教育開発センターとその下に 4 つのワーキンググループを設置して、教育力向上の取り組みを推進した。
- 短期大学部認証評価を実施し、適格認定を受けた。
- 平成 21 年度受審予定の大学認証評価の準備作業を実施した。

[地域社会との連携]

- 大学開設 20 周年、アジア文化学科・人間福祉学科開設 10 周年を踏まえた公開講座を企画し、年間で 15 講座を開催した。
- 福岡市天神イムズビルでの子育て支援プラザ「みんな塾」を平成 20 年度末で終了させ、6 年間の事業の記録を本にまとめて出版した。
- 九州国立博物館など地域の博物館との連携事業として公開講座と協議会を各 1 回開催した。
- 小中学校に派遣する学生サポーターとして、福岡県、福岡市、大野城市などに計 25 名の本学学生を派遣した。

〔国際交流〕

- 学生課の国際交流業務と情報メディアセンターの LL 教室運營業務を再編成して、国際交流センターを新たに設置し、国際交流ならびに外国語学習支援業務を強化した。
- オーストラリア夏期研修に 45 名、南開大学夏期語学研修（中国）には 18 名の学生が参加した。インド思想と文化研修については現地政情不安のため研修を中止した。
- 北京語言大学（中国）へ 1 名、クイーンズ大学（カナダ）へ 4 名の留学生を派遣
- 福岡県内 13 大学の 1 校として、韓国釜山市内 11 大学とコンソーシアム協定を締結した。

（2） 研究

- 研究活性化の一環として、指定研究 2 件、一般研究 10 件に研究費の助成を実施した。
- 人間文化研究所年報、大学・短期大学部紀要を発刊した。
- 研究倫理ならびに研究費適正使用のための組織と各種規程を整備し、運用体制を確立した。

（3） 学生生活支援

- 大学・短期大学部奨学金を新たに設けて給付を実施、また新たな特待生制度の設置を決定し、平成 21 年度から運用開始予定である。
- 在学生保護者懇談会を本学ならびに地方 3 会場（熊本・宮崎・鹿児島）で実施した。

（4） 学生募集

- オープンキャンパス・キャンパス見学会を年間 5 回開催、また進学ガイダンスや高校訪問活動を強化するなど入試広報活動の充実を図った。
- 大学・短期大学部ホームページのリニューアルを実施し情報発信を強化した。

（5） 管理運営

- 平成 20 年度末の任期満了に伴う学長選挙を実施し、新学長を選出した。
- 学部長会を年 36 回、教学運営協議会を年 9 回開催し、大学・短期大学部の重要課題の審議と実施を推進した。
- 管理職研修、パソコンスキルアップ研修、広報研修などの実施を通して事務職員の能力開発を推進した。
- 特別補助等助成金向上のための取り組みを実施し、補助金合計が対前年度比で約 6% 増額となった。

(6) 施設設備

- 1号館～4号館トイレ改修第2期工事、1号館屋根防水補修工事など校舎改修工事を実施した。
- 保育実技実習室のアスベスト除去工事を緊急工事として実施した。
- 防犯カメラを新規に設置し大宰府キャンパスの安全強化を推進した。
- 礼拝堂横の階段にリフトを設置しバリアフリー化を推進した。
- 新規2教室、更新3教室についてプロジェクタ設備工事を行うなど視聴覚設備の充実を推進した。

3. 中学・高等学校

(1) 教育

[宗教教育の充実と深化]

- 講堂礼拝、感謝日等の宗教行事を実施した。
- 全職員による宗教教育への参加を推進した。

[学力向上対策の実施]

- 中学・高等学校の全学年習熟度別クラス編成を行い、効率的な授業を実施した。
- 高校1年生を対象に、外部施設で3泊4日の勉強合宿を実施した。
- カリキュラム変更、コース制、補習などの検討を行った。

[中・高一貫教育の充実]

- 授業の先取りを行い、精選を実施した。
- 英語、数学の習熟度別授業を実施した。
- 英語語学研修を実施した。

[授業評価の実施]

- 教員の指導力向上のため授業評価を実施した。

(2) 生活指導

- 服装容儀指導、校門校外指導、校内巡回指導、自転車通学者指導等を実施した。
- 美化、寮務、防災避難、集会指導、筑紫会（生徒会）、部活動及び保健指導等を実施した。

(3) 生徒募集（含広報）

- 広報活動（学校説明会、中学・塾への広報）の充実を図った。
- 中学校訪問、塾説明会への参加を行った。
- 学校紹介の充実としての案内ビデオ、広報誌の作成を行った。

(4) 管理運営

- 授業評価実施委員会、中高一貫教育委員会、特進コース強化委員会の特別委員会を実施した。

(5) 教職員人事

- 中・長期計画に基づく人事計画により、平成21年度教員採用試験、及び中学・高校間の教員異動を実施した。

(6) 施設設備の充実

- 中学・高等学校の生徒（教室）用机、椅子の更新を、昨年引き続き実施した。
- 校内ネットワークサーバーの更新を実施した。

4. 短期大学部附属幼稚園

(1) 教育

- 宗教教育の充実と深化を目的に、月曜礼拝・合同礼拝の実施や、今月の聖句の掲示、更にはその解説を全ての保護者に配布し、一定の成果を上げている。
- 園内研修・園外研修による教育の資質向上を目的に、日々の保育・教育に関する園内研修を実施した。また、浄土真宗保育連盟や福岡市幼稚園連盟主催の各種研修会に参加した。
- 教職員図書費を新設し、教諭の自己研鑽を推進した。前項の研修や自己研鑽補助の成果は、その全てが一朝一夕に現れるものではないが、これらの積み重ねが将来の成果に着実に結びつくと期待している。
- 本学園の大学及び短期大学部と連携し、学生ボランティアの受け入れを行った。多くの学生が日々の保育・教育や遠足等の園行事に参加することで相互の交流を深めることが出来、園児にとっても一定の教育成果があがっている。
- 預り保育“たけのこクラブ”の一層の充実の為、内容などの検討を始めた。
- 育児支援2歳児教室“たんぽぽ”の一層の充実の為、内容などの検討を始めた。

(2) 生活指導

- 連絡ノートを積極的に活用したことで保護者との連絡体制が強化され、相互の意思疎通をさらに高めることができた。
- クラスだより、学年だより、園だよりを発行することで、保護者との連絡体制

が強化され、相互の意思疎通をさらに高めることができた。

(3) 園児募集（含広報）

- オープンキャンパス及び見学会〔5月・9月の年2回〕を実施した。今後は、小学校の行事日程を考慮し、さらに積極的な広報活動を行いたい。
- 2歳児教室“たんぼぼ”の募集告知をホームページ上で実施した。今後は子育て支援と言う点を中心に、さらに積極的な広報活動を行いたい。
- ホームページを用いた情報発信、特に新着情報の発信強化を心掛けた。

(4) 管理運営事項

- 全体主任及び学年主任、チーフ制(たんぼぼ、たけのこ、補助)による、全体の連携を強化したことで、一定の成果を上げることができた。今後はさらなる連携強化を図りたい。
- 職員会議において、園児及び保護者への対応に関する情報を全教諭が共有する仕組みが定着し、日常の保育において一定の成果を上げている。
- 連絡メールシステムが、全保護者の協力の下円滑に機能しており、園からの情報配信に関するスピードと精度の向上を図ることができた。

(5) 教職員人事

- 障害児担当教員配置更新した。これは、本学園ならではのシステムで、保護者からの高い信頼を得ている。
- 短期大学部幼児教育科教員による園児の発達支援及び教員支援を実施した。これは、本学園ならではのシステムで、保護者からの高い信頼を得ている。

(6) 施設設備の充実

- 新園舎建築に関する研究を目的に、数園の施設を見学し、多くの情報を収集することができた。

以 上